

● 仙台市博物館 主幹 高橋あけみ

筆筒の発生は江戸時代?

日本の筆筒のイメージは、抽斗で埋めつくされた直方体の収納用具である、といったところでしょうか。そういった筆筒の歴史は案外新しく、江戸時代前期の十七世紀、寛文頃からのようです。庶民が持つ衣裳や財産が増えるにつれて、筆筒が発達したと考えられています。



国連防災世界会議で表演する八重樫栄吉氏(平成27年3月)

仙台筆筒の思い出

仙台筆筒は幕末頃にあらわれ、明治半ばから大正前期が最盛期と言われています。時期により形式も変化しますが、幅は四尺(約百二十センチメートル)、抽斗は四段が多く、上段は刀が入る長い抽斗がつき、右下に金庫となる片開きの扉がつくものが典型的な形でしょう。時には門と呼ばれる鍵穴のある柱が付属します。前面は樺材で赤みを帯びた木地呂塗り仕上げ。模様を打ち出した鉄金具がつくのが特徴です。明治中期頃からは海外へ輸出されたためあって、鳳凰や獅子に牡丹、龍などの華麗な彫りを施した金具がつくのが特徴となりました。

私事で恐縮ですが、明治生まれの亡き祖母は仙台筆筒を持っていました。ひとつは桐製でもう一つは樺に漆塗りだったと思います。黒光りする彫金が美しかったのです。

が、残念ながら貰い火で罹災し、二樟とも処分してしまいました。今ならなんとか修理に出したかもしれませんが、俱利伽羅龍の金具がついた門が一本、手元に残ったきりです。明治から大正頃の仙台的嫁入りは、仙台筆筒を持たせるのがステイタスだったのでしょうか。仙台市民にとっては、高い買い物ではあるものの、今より身近であこがれの家具だったに違いありません。

震災後の仙台筆筒―新たなる挑戦

平成二十三年三月の東日本大震災では、多くの仙台筆筒が津波で流され、職人さんたちは愛用の道具を失いました。職人の道具は手作りが多く、仙台筆筒の彫金を手がける八重樫栄吉氏も津波で道具を流され、あらためて道具を作りそろえるのに数年かかったといえます。

今年すなわち平成二十七年六月に、仙台筆筒は国指定の伝統的工芸品の指定を受けました(申請者・仙台筆筒協同組合)。仙台筆筒の漆塗りを手がける長谷部嘉勝氏の話によると、すでに宮城県の指定は受けていたものの、国指定でなかったために復興予算の恩恵をあまり受けられなかったとのこととです。当時の無念が、国指定への強い原動力となったことは確かです。

現在、宮城県内の仙台筆筒の調査が進んでおり、まもなくその集大成が発表されます。また老舗である門間筆筒店(門間屋)では、デザイナーとコラボレーションするなど新たな仙台筆筒のあり方を提案し、フェイスブックで情報発信するといった、いまどきの手法がとられています。仙台筆筒は、未来へと確実に動き出しているのです。



花菱月丸扇紋散蒔絵三層 佳姫所用(公財)宇和島伊達文化保存会蔵

華やかな大名文化や、仙台伊達家との関係を伝える貴重な資料をご紹介します。

西国の伊達 宇和島伊達家に伝来する貴重な文化財がはるばる仙台にやってくる!

歴史姉妹都市締結40周年記念 特別展
宇和島伊達家の名宝

一政宗長男・秀宗からはじまる 西国の伊達一

11/23(月・祝)まで開催中!

※会期中、一部展示替えを行います。

【観覧料】一般：1,100円 大学・高校生：600円
小・中学生：300円

■主催：仙台市博物館 ■共催：河北新報社、TBC東北放送
■特別協力：(公財)宇和島伊達文化保存会、宇和島市立伊達博物館、瑞蔵寺

企画展「せんだい再発見!」関連行事

第24回 仙台市史セミナー「せんだい再発見!」

「仙台市史」全32巻の完結を記念して、市史編さんに関わった各氏に、あらたに分かった仙台の歴史像について話していただきます。

- ◆日時：平成27年12月12日(土) 13:00~16:00
- ◆会場：仙台市博物館ホール(定員200名)
- ◆講師：宮城学院女子大学学長 平川 新 氏
宮城県考古学会会長 田中 則和氏
東北大学大学院教授 安達 宏昭氏

聴講をご希望の方は、1名につき1枚の往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、仙台市博物館「第24回仙台市史セミナー」係までお申込み下さい。◆申込締切：11月25日(水)当日消印有効。◆応募者多数の場合は抽選となります。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

開館時間：午前9時~午後4時45分(最終入館午後4時15分) ●11月の休館日：毎週月曜日(11/23は開館)、11/4(水)

TEL:022-225-3074 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/